ちば里山新聞

（第３７号）
編集発行 NPO 法人ちば里山センター
袖ケ浦市長浦拓２号 580-148
電話　0438-62-8895
題　字　倉島　貴浩
（ワークホーム里山の仲間たち）

東日本大震災は、これまでに経験のない甚大な被害をもたらしました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。ともに復興に向けて努力してゆきましょう。

見直そう　揮発性の高い燃料の取り扱い

ガソリン引火爆発事故を教訓に

先ごろの京都府福知山市における花火大会会場での爆発事故は、携行缶内のガソリン蒸気が一挙に吹き出して引火したことによるものとされ、日ごろ、エンジン刈払機やチェンソー、ゼネレーターやウィンチなど、揮発性燃料を扱うことの多い里山活動にも、大きな衝撃をもたらしました。

ちば里山センターでは、早速、事務所に隣接する袖ケ浦市消防本部長浦消防署に協力をお願いして、取り扱い上の注意等について指導をしていただきました。指導をしてくださったのは同本部勝呂憲夫消防司令。

改めて基本を確かめ、安全な活動を継続してゆきましょう。

携行缶の取り扱いについて

1．給油するとき：

①周囲に火気（焚き火、タバコ、蚊取り線香など）がないことを確認する。静電気でも引火することがあるので、アース（地面に置く等）を考慮する。

②携行缶の圧力調整バルブをゆっくり開く。特に、夏場は気化による内部圧力が高くなっていることに注意。

③給油口にノズルをセットし、こぼれや溢れのないように細心の注意を払って静かに注ぐ。

2.貯蔵するとき：

①ガソリンを保存することは極力避けるが、やむを得ず保存するときは、認証された容器等を使用する。KHK(危険物保安技術協会)のマークを確認のこと。(右上イラストと写真参照)

②できるだけ冷暗所に静置する。

③長期の保存は避ける。

3．携行するとき：

①作業現場等に携行する時も携行缶の使用を原則とし、当日中に使い切るようにする。

②発熱体のそばに置いたり、強い衝撃を与えたりしないように注意。

基本動作を守り、安全な里山活動を

勝呂消防司令の話　ガソリンは、引火点は-40℃、発火点は 300℃と極めて引火しやすい消防法上の危険物です。また、揮発しやすく、空気よりも重いので可燃性の蒸気が広く滞留しやすく、気がついたときはその蒸気が充満してしまっていることになります。一方、電気の不良導体なので静電気が蓄積されやすく、静電気への配慮も必要です。携行缶の取り扱いについても基本動作をしっかり守り、安全で楽しい里山活動につなげてください。(写真は、長浦消防署の皆さん。勝呂司令は前列右端)

<ちば里山センターからひとこと>

＊ガソリン携行缶の取り扱いについては、危険物保安技術協会のＨＰ（http://www.khk-syoubou.or.jp/）に掲載されていますので参照ください。

＊もちろん、刈払いや伐倒などの作業についても、基本を遵守し安全作業に努めましょう。また、10 月はスズメバチ等の活動が活発化する時期です。マムシやヤマカガシ等と合わせ、十分注意して取り組みましょう。

「ちば里山カレッジ」入学式　9 月 14 日

「平成 25 年度ちば里山カレッジ（ボランテイア養成コース)」が開校し、9 月 14 日、千葉市「きぼーる」多目的室で入学式が行われました。この講座は、地球環境基金の助成を受けてちば里山センターが主催し、広く里山人の育成と活動への参加を進めようとするもので、リーダー養成講座を含め、向こう 3 年にわたって継続することとなっています。

式は 10 時 30 分に始まり、主催者の金親理事長の式辞、来賓祝辞のあと、カリキュラムの概要説明、講師やスタッフの紹介などが行われました。式に続いてオリエンテーションやグループ編成が行われ、第一回目の講義が始まりました。本年度は来年 3 月までの 6 カ月間に 10 回の講座が予定されています。受講生のみなさん頑張ってください。（写真は、式辞を述べる金親理事長 - 左端 - ）

里山巡回相談　＜その④＞

「三樹の森」（松戸市）

千葉県森林研究所　福島　成樹

目的や利用方法を詳細に検討

2 月 18 日に、ちば里山センターの小西理事とともに第 4 回の里山巡回相談を行いました。伺ったのは、松戸里やま応援団の「三樹の会」です。今回の巡回相談の内容は、私が 2010 年 8 月に里やまボランティア・ステップアップ講座でお話しした「森作りの計画を立てる」をもとに、会員にアンケート調査をして今後の計画を作成したので、実際の森を見て、アドバイスをお願いしたいというものでした。ステップアップ講座では、松戸市という都市地域に残された貴重な森を、どのような目標を持って整備していったらよいかを参加者の皆さんとともに考えました。巡回相談の前にいただいたその答えとなる資料は、2 つの管理地（三吉の森、立切の森）をエリア分けし、どのような利用目的を持ってどのように整備するかを、アンケート結果をもとに会員の皆さんで詳細に検討した素晴らしいものでした。

伺った日は時々小雨が降る寒い 1 日でしたが、高校生や大学生のジュニア隊の方も含め 20 名近い会員の方々が元気に活動されていました。案内していただいた森の印象は、三吉の森は、ムクノキ、コブシなどの落葉広葉樹が高木層を占め、そのすぐ下の亜高木層をシラカシなどの常緑広葉樹が占める森であり、常緑広葉樹の森へ変わりつつある遷移の途中段階の森と考えられました。また、高木層の樹高は 20m を越えており、かなり高齢の森と考えられます。

一方、立切の森は、三吉の森に比べると樹高が低く、落葉広葉樹が主体の若い森でした。シラカシなどの常緑広葉樹が林床に侵入していますが、現時点ではこれらを伐採することにより落葉広葉樹林のまま維持することが可能であり、きのこ原木林としての利用は妥当な選択と思われます。

目標林形への過程を楽しむ　里山管理の講座では、よく「森の管理は試行錯誤」とお話していますが、皆さんで作った計画に基づいて整備を進め、思い描いた森にたどり着くまでの過程を是非とも楽しんでいただきたいと思います。それから、これまでの巡回相談にもありましたように、高齢の森では、時々大きな枯枝が落下してきます。下に人がいると大きな事故につながる可能性がありますので、強風時には林内に立ち入らないこと、大きな枯木、枯枝を事前にチェックしてその近くでは作業しないこと、作業時は必ずヘルメットを着用することなどの安全対策を心がけていただきたいと思います。

伺った日は 2 月生まれの誕生日会の日で、2 月生まれの私は一緒にお祝いしていただきプレゼントまでいただいてしまいました。三樹の会のみなさま、どうもありがとうございました。（写真は誕生月を祝う三樹会の皆さん）

「地域協議会」が発足

林野庁・里山支援事業で　7月18日

林野庁による森林・山村多面的機能発揮対策事業を受けて、千葉県里山林保全整備推進地域協議会が、7月18日に発足しました。

これは、地域住民、森林所有者、NPO 法人、民間団体等が構成員となり、里山林の保全管理や資源を利用するための活動に対して支援を行う国の制度が始まったことに伴うものです。

対象期間は今年度から平成２７年度の３年間。

体制は以下のとおり。

〇会長　金親博榮（ちば里山センター理事長）
〇副会長　伊藤道雄（千葉県緑化推進委員会常務理事）
〇事務局　特定非営利活動法人ちば里山センター

遊びの中に学ぶ“自然”

第16回荏原グループ世界の子ども環境絵画展、同時開催

子ども向け環境教育プログラム

７月２７日（土）、第１６回荏原グループ世界の子ども環境絵画展に併せた環境プログラム「ネイチャーゲームと竹細工教室」が銀座アートホールで開催され、ちば里山センターは企画や実施にわたり協力しました。

参加者は親子１５組３１名。以下は㈱荏原製作所 社会貢献グループ　阿部恵理香さんからの報告。

ネイチャーゲームでは、ふなばしネイチャーゲームの会様の指導のもと、「多様な生き物を感じる里山」をテーマに室内でゲームをしました。「紙芝居」や、「虫さがし」、「バット・モスゲーム」、「動物バスケット」で遊びながら、生物の生態や特徴について親子で楽しく学びました。（写真㊤）

また、竹細工教室では、ボランティアグループのいちはら里山クラブ様に指導をお願いし、ブンブンごまと竹の花入れを作りました。初めて使うノコギリに真剣に取り組む子どもや、早速自分で作ったブンブンごまで遊んでいる姿は、微笑ましいものでした。（写真㊧）

参加者からは、「遊びながら自然の事が学べました」、「子どもも楽しそうでしたが、大人の私も楽しめました」との言葉が寄せられ、親子で楽しんで活動してもらいました。

リレーエッセイ

里山とわたし

耕作放棄田のコメ作り

しろい環境塾　　南波悠二郎（しろい市）

今年も実りの秋は、鎌の稲刈りと稲束のハザ掛けに汗を流し、有機栽培した新米のうまさに大きな充足感を覚えます。田植えから参加した「田んぼの学校」の若い親子には、9月7日に稲刈りと脱穀を体験してもらいました。竹チップの堆肥作りに始まり、陸苗の栽培、取水路の整備です。田植えを終えると猛暑の草取りを繰り返し、畦の穴の補修、ハザ掛けの組み立てで、ようやく収穫にこぎ着けます（写真）。

所属するNPO法人しろい環境塾では、6年前から休耕田を高齢農家に借りて、コメ作りを続けてきました。耕作放棄された谷津田を開墾し荒廃した里山を蘇らせると、不法投機の粗大ゴミもかなり減少。稲束を天日干しするハザ掛けは、土手の彼岸花に映えて懐かしい里山風景を作り出しています。

退職後はまず、谷当グリーンクラブに入会して炭焼きや木の伐採を習いました。しかし、北総の千葉ニュータウンから通うのが大変で、5年前に最寄りの環境塾へ乗り換え。入会の動機は、コメ作りの不耕起移植栽培について故岩澤信夫さんの講演を聞いたことです。田んぼを耕さず農薬肥料を使わない究極の環境保全型農業は、十数年前から旧佐原市の篤農家によって実践され、少しずつ全国へ広がっています。環境塾幹部がそれに共鳴して冬期湛水を始めたところでした。ニホンアカガエルなど絶滅の恐れのある生き物を復活させることも目指した取り組みです。水を止めた冬の田んぼに、水田チームの会員が毎日交代で取水ポンプを動かして排水溝からくみ上げます。稲刈り後の乾燥した田に水を引き除草剤を使わないことで、確実に里山の多様な動植物を蘇らせてきています。

創立13年のしろい環境塾は、かなり前から週3回の定例作業を行い毎回20～30人が参加。里山保全部の竹林の間伐や管理地の草刈り、農業支援部の畑の野菜作りやコメ作り、子どもの環境教育部の竹細工やネイチャーゲームなど、地元農家の協力を得て多方面の活動を行っています。（ちば里山センター監事）

ちばの木の名前や特徴を知ろう

「エコメッセ２０１３in ちば」に出展

9 月 28 日（土）幕張メッセの会場で開催された「エコメッセ 2013in ちば」（主催：エコメッセちば実行委員会）に、ちば里山センターが出展し、千葉の木の名称や特徴の再認識を通じ、里山活動についての啓蒙活動を行いました。
入場者総数は１０，２００名。
（写真は、親子連れで賑わったちば里山センターのブース）

ふるってご参加ください　展示会や里山活動の今後の予定です（10 月～12 月）

◆展示会・ショウ

月　日	イベント名称	会　場	主催・連絡先
10 月 5・6 日	エコフェスタ in 千葉	わくわくながら長柄町都市農村交流センター	ｴｺ･ﾌｪｽﾀ in 千葉 実行委員会 (0475-35-5086)
12 月 13～14 日	エコプロダクツ２０１３	東京ビッグサイト （東１～６ホール）	(一社)産業環境管理協会 日本経済新聞社

◆里山活動団体

月　日	イベント名称	会　場	主催・連絡先
10 月 19 日(土)	第 5 回公開講座 地球温暖化を防ぐ森の働き	千葉県消費者ｾﾝﾀｰ２階	千葉県環境研究ｾﾝﾀｰ (0436-24-5309)
10 月 19 日(土)	～ｶﾀｸﾘの里山～秋の自然観察会	市原　風呂の前	風呂の前里山保存会 (0436-52-7487)
10 月 27 日(日)	食と音楽の里山まつり	白井市　　しろい環境塾	NPO 法人しろい環境塾 (047-404-3298)
10 月 27 日(日)	九十九里海岸松林の下枝落とし	大網白里　真亀の森	NPO 法人ちば里山ｾﾝﾀｰ (0438-62-8895)
11 月 2 日(土)	里山に住む鳥の観察・どんぐりの森づくり	白井市　しろい環境塾	NPO 法人しろい環境塾 (047-404-3298)
11 月 9 日(土)	森林浴と里山体験	市原市天羽田・ジャックの森	おとずれ山の会 0436-36-3773

＊上記は 9 月 20 日までに情報が寄せられたものに限りました。

～里山トピックス～
台湾からのお客さま

８月２７日（火）、台湾からの視察団が、ちば里山センターを訪れました。一行は、主として国立公園の管理者のみなさんで、日本の公園運営の実情を視察するかたわら、「里山」の保全・管理の実態の理解を深めようというものです。里山センターでのミーテイングのあと近隣の里山フィールドをご案内。ミーテイングや見学会を通じて、里山センターの成り立ちや里山活動の実態について、熱心な質疑応答や活発な意見交換が行われました。（写真）
SATOYAMA はまさしく国際語になりつつあるとの感を強くしました。

※　詳細についてはちばセンターホームページをご覧ください。※参加お申込み・問い合わせ先

- **特定非営利活動法人　ちば里山センター**
- 袖ケ浦市長浦拓 2 号 580－148　TEL0438-62-8895 FAX0438-62-8896
- http://www.chiba-satoyama.net/　e-mail info@chiba-satoyama.net

ちば里山センター